

新潟工高文化祭で 建設業の魅力発信

若手入職へ産学官連携

北陸地方整備局は、若手の入職対策の一環として、新潟県立新潟工業高校の文化祭でものづくりの魅力を発信する。

産学官の連携による「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」という枠組みを生かし、建設産業の誇り、頼もしさ、楽しさを学生やその保護者に伝え、業

界に対する理解を深めてもらうのが狙い。

具体的な取り組みとして、▽防災に関するパネル▽3Dメガネで見る立体地図▽萬代橋に関するパネル▽同橋の模型▽橋梁の老朽化に関するパネル▽海岸侵食、人工リーフのパネル―などを展示する。

最新機器など展示

また、降雨体験車や液化装置の実演、最新測量機器の展示、ラジコンヘリコプターのデモ飛行を予定している。

開催は25日。一般開放は午前10時から午後2時30分まで。

同局とその出先事務所である北陸技術事務所、新潟国道事務所、信濃川下流事務所、阿賀野川河川事務所とともに、新潟県測量設計業協会が設営を手掛ける。

風 波

「もの言わぬ職人が増えてきた」との声がゼネコンの現場技術者から漏れ聞こえてくる。元請けの指示とおりの仕事しかせず、サラリーマン化しているとのことだ◆昔は、元請けの指示が間違っていたり、もっと効率的な方法があれば職人が指摘

し、時には大喧嘩しながらより良いものをつくらうと元下双方が努力してきたが、最近の若者にはその情熱が感じられないらしい◆一方、職人からは「現場を知らないゼネコンの技術者が増えてきた」との声が聞く。どちらの本音であり、これが今の

建設現場の実態なのかもしれない◆ものづくりにかける情熱は現場でしか培われない。利益の源泉である現場力の向上のためにも、元下関係を超越し、お互いがある環境を整えることが重要であり、情熱を取り戻すきっかけにもなるはずだ。